

北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の整備に関する有識者会議(第10回)

議 事 概 要

令和6年10月24日(木) 10:00~12:00

於: 国土交通省 8階特別会議室

- 渡島トンネルのこれまでの長尺ボーリングで採取されたコアの様子からは、現時点では現状の厳しい地質が好転する兆候は見られないことを確認した。また、今後、長尺ボーリングや空中電磁探査等の結果を活用するにあたっては、掘削済み区間の実績も併せて分析しておく必要がある。
- 工程が厳しいトンネルの掘削工程については、地質不良や岩塊等のリスクを今後の見通しにどう反映させるか議論を行い、今後想定される掘削速度やリスクが発現した際の遅延の度合いを確認した。
- 設備工事については、大部分が契約前であるが、工程短縮策は契約後でないと調整できないものもあるため、可能なものについては早期に設計に着手し、発注時期を早められるように努めるとよいのではないかと。
- 設備工程については、北海道の現場条件をふまえた工事の手順や前提条件などの議論を行ったところだが、今後、設備工程でとりうる短縮策など工程検討の深度化や監査・検査のスケジュールの検討を行っていく必要がある。
- 次回に向けては、本日の議論をふまえて、工事の完成見通し時期の前提となるリスク、更なる短縮についての検討の深度化を進める必要がある。